



I. 第12回ダナン都市開発フォーラム

2024年2月15日から17日の3日間、第12回ダナン都市開発フォーラムが横浜市協力のもとベトナム・ダナン市で開催されました。横浜市は2013年にダナン市と技術協力に関する覚書締結以来、日本の経験や市内企業が持つ技術を活用しダナン市の都市環境問題の解決に向けた取組を支援してきました。フォーラムは、持続可能な開発の促進を目的としたビジョンやアクションプランを共有する場であり、今回は4年ぶりにダナン市での開催となりました。

3日間のフォーラムは、分科会、ビジネスマッチングセミナー、ダナン市人民委員会表敬訪問、本会議、ダナン市内視察の主に5つのプログラムで構成されました。分科会はエコ工業団地、廃棄物管理、スマートシティ開発、SDGs/VLR（自発的自治体レビュー）の4つのテーマで開かれ、日本企業や国際機関等からこれまでの実施例や成功例の共有と提案がありました。また、ビジネスマッチングセミナーが、YUSA（Yokohama Urban Solution Alliance）、ダナン青年会議所、環境省（環境インフラ海外展開プラットフォーム）の共催で行われ、ダナン市における都市開発事業に向けた官民連携強化を図りました。表敬訪問はベトナム市人民委員長と横浜市国際局長参加のもと行われ、ダナン市関係各局や日本企業も参加し、両都市間の議論を円滑にし、結束を強める機会となりました。さらに、本会議では、先に開かれ活発な議論となった分科会の総括と、アジア開発銀行や世界銀行などの国際機関による基調講演が行われました。プログラム最後のダナン市重点事業予定地の視察には横浜市と横浜市内企業から約20名が参加しました。視察団は、現在のダナン駅と

その移転先と、リエンチュウ港整備の様子、ホアカイン埋立地、埋立地周辺の廃棄物管理関連施設を訪問しました。



現在のダナン駅視察の様子



リエンチュウ港開発地区視察の様子

ハイライト

i. 分科会

2024年2月15日、エコ工業団地、廃棄物管理、スマートシティ開発、SDGs/VLRの4分科会が開かれました。いずれの分科会にもダナン市の主要部局、日本からの関係団体や横浜市内企業から40名ほどの参加者がありました。エコ工業団地分科会において、ダナン市は2030年を目途に2から3のエコ工業団地開発を目標にしたイニシアティブを発表し、横浜市からは炭素管理システム(CMS)と水質管理に関する提案がありました。続いて、廃棄物管理分科会では、JICA草の根事業や横浜市から事例の紹介と提案があり、行政・企業・市民の参画による、きれいな都市の実現に向けたこれまでの取組発表がありました。スマートシティ開発分科会では、横浜市内企業の技術を活かした省エネ計画とスマート交通制御の紹介があり、ダナン市が目指すスマートシティ構想に寄与する提案でした。SDGs/VLR分科会の最後には、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)のカート・ガリガン氏が基調講演を行い、VLRの概要やそのメリットについて説明をしました。シティネット横浜プロジェクトオフィス(CYO)の山腰企画課長は、横浜市のVLR実施とダナン市へのVLR導入支援に関する有益な情報を提供しました。ダナン市計画投資局からはVLRの進捗状況について報告があり、続いて関係局からSDGs達成や脱炭素化に向けた取組について紹介がありました。参加者らは今後も議論を継続していくこととし、各分科会は幕を閉じました。



横浜市、日本の組織団体、企業からの参加者



ダナン市によるプレゼンテーションの様子



UNESCAP, カート・ガリガン氏による
プレゼンテーションの様子

ii. 本会議

2024年2月16日本会議が開催され、アジア開発銀行と世界銀行による基調講演と各分科会の総括がありました。フォーラムにはダナン市人民委員会副委員長、横浜市国際局長、ダナン市・横浜市の各局代表、国際機関、横浜市内企業から約50名が出席しました。ダナン市人民委員会副委員長ル・クアン・ナム氏は開会の辞で、ダナン市と横浜市との関係構築における重要な基盤として第12回ダナン市都市フォーラムの重要性を強調しました。ナム氏は4つの分科会の更なる発展と、スマートシティ開発のための具体的なソリューションに焦点を置いた今後の実証、調査提案に期待を寄せました。続いて横浜市の橋本徹国際局長が開会の辞を述べ、横浜市は官民連携によりダナン市の都市開発に向けて知見経験の共有を促進し、都市問題解決に貢献

していくことを強調しました。また、将来的な実証や政策の導入促進にあたり、それらの戦略に関する議論や決定にも関わっていく意向を示し、ダナン市の取組の成果が2024年10月に予定されているアジア・スマートシティ会議で披露されることへの期待を述べました。



横浜市国際局長による
本会議開会の辞の様子



ダナン市人民委員会副委員長による
コメントの様子



本会議の様子

開会の辞に次ぎ、アジア開発銀行のアレクサンダー・ナッシュ氏、世界銀行のフォン・アン氏が基調講演をし、都市開発における都市間連携への支援と期待を表明しました。横浜市の横内宣明氏からはエコ工業団地とスマートシティ開発分科会の成果報告があり、同じく横浜市の鈴木信氏が廃棄物管理分科会の結果報告をしました。ESCAP経済部門責任者であるカート・ガリガン氏は、世界各都市の持続可能な開発に向けたVLR実施の取組について見解を述べました。ダナン市計画投資局のル・ミン・トゥオン氏からはSDGs/VLR分科会の成果報告がありました。それぞれの発表に対して参加者から意見や感想が寄せられ、本会議は両都市代表による閉会の辞と記念撮影により成功裏に幕を閉じました。

今後も公民連携で都市間協力の取組を推進していきます。



II. 横浜市国際平和講演会



横浜市は、未来を担う若者と平和について考える取り組みを行っています。2023年12月2日に横浜市役所内で、「平和のために自分たちには何ができるのか考え、行動する」をテーマに、市内の中学生9人が参加し、公開授業形式で国際平和講演会が実施されました。

国際協力機構（JICA）で途上国支援に活躍された戸田隆夫講師からは、「一步を踏み出すことで何かが変わり出します。人とのつながりで世の中は広がり、愛とか、思いとか、知恵とか、分け与えても決して減らないもので輝きは増していきます。」「どんな未来の世界をつくりたいか、その問いを立て続けることです。君たちが問い続ければ、20億人の今の子どもたちが大人になって見る世界は、絶対に今の世界から変わっていると信じています。」と語りました。また、ルワンダ出身で内戦を経験し、現在日本で教育支援などに取り組む永遠瑠マリールイズさんをゲストスピーカーに迎えました。永遠瑠さんは、ルワンダで起こったジェノサイドの自身の経験を踏まえ、「私を助けてくれたのは教育であり、人の優しさでした。」「教育は未来を切り開く扉です。限りない可能性を手に行っている皆さん、その扉を開いて世界中を笑顔にできる人になってほしい」とエールを送りました。参加した生徒からは、「いい未来をつくるためには、一人ひとりが地球上の課題を知り、向き合う必要がある。ま



ずは自分が課題を知り、解決に向けて行動していきたい。」などの思いが共有されました。

平和な未来のためには、私たち一人ひとりが、平和を享受するだけでなく、考え、行動することが必要です。平和のために、今、私たちができることは何なのか、考えてみませんか。講演会の動画や当日の様子は[こちら](#)からご覧ください。



Ⅲ. 学校間のSDGsに関する教育連携の合意覚書締結

横浜市は、CYOと連携して、次世代におけるSDGs推進プログラムの一環として、横浜市内の小学校とシティネット会員都市内の学校との交流会を実施してきました。この取組は横浜市と海外都市の生徒が身近に課題として感じることにについて意見交換し、その課題をSDGsの視点で自分事としてとらえ、SDGs達成に向けて自分達でできる目標を設定し、共に取り組むことを狙いとしたものです。これまでの交流事業の成果をふまえ、2022年よりを交流を続けてきたみなとみらい本町小学校及びウランバートル第23学校は、2024年3月12日にSDGsに関する教育連携の合意覚書（MOU）を締結しました。本MOUにおいて両学校は、SDGsに関連した教育活動の連携を更に発展させることを目的として、中・長期的にSDGsに関する知見・課題・意見を共有するための学生間交流会等の実施や連絡体制の確立による継続的な協力促進を図ることを合意しました。

引き続き、2030年に向けた、持続可能な世界の実現のための行動意識を促すことを目的としてこれらの取組みを推進するとともに、シティネット会員都市へ発信し、海外都市におけるSDGs推進につながることを目指していきます。



〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
横浜国際協力センター6階、パシフィコ横浜

TEL: 045-221-1214

E-mail: citynetyokohama@gmail.com



CITYNET Yokohama Project Office
supports the SDGs.